

要 約

報 告 番 号	① 乙 第	号	氏 名	河 野 佐 代 子
主 論 文 題 名 Trazodone and Mianserin for Delirium <i>A Retrospective Chart Review</i> (せん妄に対するトラゾドン・ミアンセリンの使用実態およびその効果～後方視的診療録調査～)				
(内 容 の 要 旨) せん妄は高齢者に発症しやすく転帰を不良にするため、有効かつ安全なせん妄治療薬を確立することは喫緊の課題である。現在、せん妄治療において一定のエビデンスがあるのは抗精神病薬であるが、抗精神病薬は、様々な副作用を惹起しうるばかりでなく、高齢者においては死亡リスクを上昇させる。抗精神病薬に代わる安全なせん妄治療薬として、鎮静作用を有する抗うつ薬のトラゾドンとミアンセリンが臨床で汎用されているが、せん妄治療に対する効果は確立されていない。そこで我々は、せん妄に対するトラゾドンおよびミアンセリンの使用頻度と有効性を検討するために、後方視的診療録調査を実施した。 2017年4月1日から2021年3月31日までの4年間に慶應義塾大学病院に入院し、せん妄の治療としてトラゾドン、ミアンセリンのいずれかを定時で単剤投与された患者を対象とし、せん妄の改善率および改善までの期間を比較した。 せん妄を発症した患者3,971例のうち、トラゾドン、ミアンセリンを定時投与された患者はそれぞれ379例（9.5%）、341例（8.6%）で、そのうち単剤投与された患者はそれぞれ52例、46例であった。65歳以上の患者の割合は、トラゾドンで45例（86.5%）、ミアンセリンで41例（89.1%）であった。せん妄の改善率は、トラゾドンで63.5%、ミアンセリン50.0%であり、両群間に有意差はなかった（$p=0.17$）。せん妄の改善までの期間は、トラゾドンで5.3日（95%CI=3.2-7.4）、ミアンセリンで9.3日（95%CI=5.3-13.3）であり、両群間に有意差はなかった（$p=0.13$）。 せん妄に対してトラゾドンとミアンセリンが一定の割合で使用されていること、一定の効果があることを示された。抗精神病薬は副作用のリスクが高いため、特に高齢者のせん妄治療において、トラゾドンおよびミアンセリンは選択肢の一つとなりえる。				